

大学教育学会 課題研究活動報告書 (2020 年度)

提出日 2021 年 3 月 22 日

報告者 杉森 公一

課題研究テーマ	アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究
代表者 (所属)	杉森公一 (金沢大学)
メンバー (所属)	堀井祐介 (金沢大学)・河内真美 (金沢大学)・山本啓一 (北陸大学)・田尻慎太郎 (北陸大学)・宮本知加子 (福岡工業大学)・三浦真琴 (関西大学)・安部有紀子 (大阪大学)
担当理事 (顧問)	山内正平
コメンテーター (所属)	沖裕貴 (立命館大学)
実施した活動	最終年度は、これまで報告してきた実践事例と実践枠組みの要素検討を踏まえて、大会ラウンドテーブル、課題研究シンポジウムを通じて、LA 憲章として実践枠組みを抽出し、LA 制度運営者向けアンケートの実施と分析を行った。これらの研究遂行を通して、アクティブラーニング型授業における学修支援を実現する学生アドバイザーの制度・研修・活動・効果を各大学へ展開する足場を形成した。
成果	<p>(学会発表)</p> <p>杉森公一・田尻慎太郎・宮本知加子・三浦真琴・河内真美・堀井祐介・山本啓一 (企画者) (2020) アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実践枠組みの提案, 大学教育学会第 42 回大会ラウンドテーブル, 2020 年 6 月 7 日</p> <p>課題研究シンポジウム IV 「アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究」, 報告 (杉森公一)・総合討論 (堀井祐介・宮本知加子・田尻慎太郎・杉森公一)・指定討論 (沖裕貴), 大学教育学会課題研究集会, 2020 年 11 月 29 日</p> <p>(論文)</p> <p>田尻慎太郎 (2020) 複数大学調査から見えてきた学生による学修支援効果の共通点と相違点, 大学教育学会誌, 42(1), 46-50. 安部有希子 (2020) 学習・学修支援に関わる学生スタッフの取組実態と課題, 大学教育学会誌, 42(1), 51-55. 杉森公一 (2020) 米国立大学ラーニング・アシスタントの事例からみる学修支援への示唆, 大学教育学会誌, 42(1), 56-58. 沖裕貴 (2020) さらに議論のために (指定討論), 大学教育学会誌, 42(1), 59-62.</p>
残された課題	これまで得られた知見から実践枠組みを LA 憲章として抽出し、学生アドバイザー (LA) 制度の運営者に向けた全国アンケートを実施した。今年度は、全国的に対面授業が著しく制限され、アクティブラーニング型授業を支援する LA の状況を図るために、当初計画していた学生・学生アドバイザー・教員への共通アンケート紙の調査紙設計は進めたものの、遠隔授業下での状況に則した実施状況調査の実施には至らなかった。